

# 會報

平成12年11月20日 発行

第 45 号

関東地区整形外科勤務医会

発行者：会長 村瀬 鎮雄

発行所：事務局 代表 関 寛之

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院内

関東地区整形外科勤務医会

☎ (042) 995-3100

FAX (042) 995-0355

## 巻頭言

### 勤務医会千葉支部の設立から1年

千葉県こども病院整形外科 亀ヶ谷 真琴

千葉支部の発足から早1年を迎えようとしています。埼玉県や神奈川県では既に支部が創設され、支部全体が活発な活動をされていることから考えますと、遅ればせながらやっとスタートラインに立てた気がいたします。山下幹事（千葉市立病院）、田中幹事（君津中央病院）、永瀬幹事（国立千葉病院）と準備を進め、昨年11月13日に第一回の支部会が開かれて以来、県内の主要な病院の先生方には世話人として参加していただき、まず今後の千葉支部としての活動方針を検討することから始めました。まだ、具体的な方針を打ち出すところまでは行っていませんが、とにかく会員数を増やすことが絶対条件であることは言うまでもありません。多分有効な手段はなく、人海戦術に頼る他ないと思われませんが、幸いにして参加していただいた世話人の先生方には、学閥を越えて積極的に協力していただいております。見通しは明るいものと楽観しております。現在まで、支部の主な活動としては、5月の世話人会、6月の関東勤務医会総会での研修講演の企画（千葉大学守屋教授と千葉リハセンター村田先生に依頼）、9月には第2回の支部会および講演会を行いました。また、千葉県臨床整形外科医会との共催として、9月に市民講座（こどもの骨折）、10月には医療電話相談にも参加しております。

この所の度重なる医療事故や大学の変革に伴い、医学教育・卒後教育の見直しが迫られるのは必定と思われれます。臨床医（勤務医）への期待は、患者さんに密着した医療はもちろんのこと、卒後教育や臨床研究（新しい診断・治療技術の開発）の分野でも大きなものになると思われれます。平成14年度から始まる卒後臨床研修義務化（スーパーローテイト方式）には、今の所整形外科は必修化されていないようで、この点では今後患者側の要望に充分答えて行けるのか非常に心配です。欧米のように、若手医

## 主要目次

1. 巻頭言 ..... 勤務医会千葉支部の設立から1年 ..... 亀ヶ谷真琴 ..... 1
2. 勤務医会役員と日整会代議員候補者の選出について ..... 会長・村瀬 鎮雄 ..... 2
3. 勤務医会ニュース ..... 4  
    全国整形外科保険審査委員会議 ..... 4  
    日整会役員・代議員懇談会 ..... 6  
    骨と関節の日 ..... 9
4. 第31回教育研修会のご案内 ..... 9
5. 会員の異動 ..... 9
6. 入会のご案内 ..... 10
7. 事務局日誌・編集後記 ..... 11

師があらゆる分野で広い知識を持つ背景には、しっかりした医学教育システムがあります。今後は、大学側と勤務医側とがしっかり連携をとり、研修医はもちろん専門医の養成にも、勤務医はしっかりしたシステムの中で重要な役割を担う必要があるでしょう。そのためにも、少しづつではありますが、千葉支部においてもその活動の底辺を広げ、そうした体制にいつでも対応できるように努力して行きたいと思っております。関東勤務医会の諸先生方には、今後とも引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 勤務医会役員と日整会代議員候補者の選出について

会長 村瀬 鎮雄

日整会の評議員が代議員に変更して最初の選挙が来年行われる予定であります。しかし、関東地区もここ10年間選挙は行われずに、教職、臨床医会、勤務医会の3者による話し合いで数が決められてきました。

今回選挙法の改正により、①代議員定数の増員(200名から250名)、②立候補は本人の意志のみで可能、③5名連記が1名のみなどが変更となります。関東地区の定数が62名から77名になりました。

I 平成12.10.10 12年度第一回職域懇談会が守屋教授を中心として開かれました。

1. 出席者は 大学関係 守屋秀繁先生(千葉大)  
藤井克之先生(慈恵医大)  
戸山芳昭先生(慶應大)  
JCOA 青木善昭先生(松本)  
那須耀夫先生(東京)  
山下恵代先生(神奈川)  
勤務医 大井利夫先生(上都算総合)  
関 寛之先生(国立身障リハ)  
村瀬鎮雄先生(神奈川リハ)

### 2. 議 題

- 1) 話し合いで立候補者の調整をするか否か。
- 2) 調整するとすれば定員増加分の割り振りについてが討議されました。

### 3. 決定事項

- 1) 話し合いで調整を行う。
- 2) 増加分の配分は大学が11名増で58名、JCOAが2名増で10名、勤務医が2名増で9名の計77名
- 3) 大学は1大学2名を原則とし(25校あり50名決定)残りの8名については大学側が話し合う。
- 4) 3つの職域団体は責任をもって立候補者の定数を守る。
- 5) 理事選も話し合いで調整する。

II 平成12. 9. 28 日本勤務医会役員会が行われ、役員人事（次年度）として

会 長 三笠元彦先生  
副 会 長 上尾先生 田 先生 影浦先生  
事 務 局 佐々木先生（神奈川済生会）

が承認されました。

理事として 上尾先生 石名田先生 関 先生  
監事として 山浦先生 栗原先生 を推薦

III I、IIを受けて 12. 10. 16 関東勤務医会、常任幹事会が開催されました。

1. 来年度役員人事

会 長 関 寛之先生（国立身障リハ）  
副 会 長 秋山典彦先生（茅ヶ崎市立）  
" 亀ヶ谷真琴先生（県立千葉こども）  
事 務 局 立花新太郎先生（虎ノ門）  
社会保険事業会 村瀬鎮雄先生（神奈川リハ）  
外保連委員会 石突正文先生（土浦協同）

が承認されました。

2. 代議員候補の選出

- 1) 大井先生、岡井先生が任期でやめられ、山浦先生は引き続き監事（日整会）をやっていた  
く。（監事、理事は代議員の資格がなくなりますので）
- 2) 石名田先生が代議員を辞退されたいと強い要望がありました。
- 3) 2名増加の9名について討議され

役員を優先的に考える  
若手に切りかえる  
地域代表を考慮する  
大学が特定の大学に偏らない  
アクティブにやっている先生を中心に

などを考慮して次のように決まりました。

- 1 秋山 典彦先生 副会長、神奈川会長
- 2 石突 正文先生 外保連委員、茨城会長
- 3 亀ヶ谷真琴先生 副会長、千葉会長
- 4 佐々木 孝先生 日本勤務医会事務局
- 5 関 寛之先生 関東勤務医会会長
- 6 立花新太郎先生 関東勤務医会事務局
- 7 細谷 俊彦先生 群馬会長
- 8 三笠 元彦先生 日本勤務医会会長
- 9 村瀬 鎮雄先生 社保委員会委員長

いろいろと御意見があると思いますが、勤務医会がますます存在価値を発揮しております。整形外科学会の運営を計る上でも努力する所存でございますので、御協力よろしくお願いいたします。

## 勤務医会ニュース

### 全国整形外科保険審査委員会議

平成12年9月24日、第6回全国整形外科保険審査委員会議が品川プリンスホテルで開催された。日本整形外科学会、日本臨床整形外科医会、日本整形外科勤務医会の共催で保険診療上の疑義や要望を社保、国保の保険審査委員の先生方からご意見をいただいて討議する。この討議は保険診

療にあたってのコンセンサスの形成や外保連への要望事項の作成に大変役立っている。設問は多い年は50題、ここ2年は35題位にしぼっているが、それでも討論時間が不足してフラストレーションが残るので今年は設問を30題に減らした。勤務医会からは手術を中心に10の設問を提出して勤務医会の社会保険委員である山浦伊装吉先生の司会で討議が進められた。

勤務医会からの設問をQ、討議内容の要約をコメントとして以下に載せる。

## 平成12年度全国整形外科保険審査委員会議での検討事案

### 日本整形外科勤務医会社会保険委員会

Q	ジャンル	A	総論的	要望	コメント
Q1	ジャンル	A	総論的	要望	コメント
				紹介率算定について。救急車で来院は紹介患者としてカウントされるが、救急車以外の手段で受診した場合はカウントされない。これもカウントできるように要望する。	紹介患者加算は紹介状のある患者、救急患者、救急用自動車で搬送された患者が対象となる。救急患者は緊急的に入院し治療を必要とした入院患者は除くことわってあるが、意味がよく分からない。外保連に疑義解釈か要望事項として出す。
Q2	ジャンル	A	総論的	要望	コメント
				術前検査でHIVの検査が査定されるが、やめるべきである。	出席の保険審査委員のうち査定するが70%位であった。HIV検査を保健所などで受けるように推進する一方で、術前検査を査定するのではHIV感染拡大の防止という医療政策上矛盾している。要望事項として提出する。
Q3	ジャンル	A	総論的	要望	コメント
				自己血輸血は貯血に対する点数を設けるべきである。	K920.3自己血輸血200ml、液状保存950点、凍結保存1900点であるが、採血および液状保存を500点、採血および凍結保存を1450点とし、自己血輸血を450点と貯血と輸血を分けるほうが合理的である。要望事項として出す。
Q4	ジャンル	A	総論的	疑義	コメント
				骨移植で自家骨と人工骨を同時に移植した場合、K059.1自家骨移植9160点とK059.2自家骨移植以外の骨移植7920点を同時に請求できるか。	自家骨と人工骨を混ぜて移植したときは自家骨プラス人工骨の特定材料費のみの請求が妥当である。

<b>Q 5</b>	<b>ジャンル：D. 脊椎・脊髄</b>	<b>疑義</b>	<b>コメント</b>
脊髄膿瘍摘出術の点数設定がないが、K191.2脊髄腫瘍摘出術、髄内のもの54500点で請求できないか。			請求できる。

<b>Q 6</b>	<b>ジャンル：D. 脊椎・脊髄</b>	<b>要望</b>	<b>コメント</b>
K134椎間板摘出術について椎間板数による加算を設定する。			椎弓切除と同様に複数手術の特例として「1椎間を増すごとに所定点数の100分の50の加算。100分の200を限度とする。」という注をつけるように要望事項としてだす。

<b>Q 7</b>	<b>ジャンル：D. 脊椎・脊髄</b>	<b>要望</b>	<b>コメント</b>
脊椎脊髄の手術は椎弓形成術など手術手技に点数設定したものと黄色靭帯骨化症など特定の疾患の手術に点数設定したのものがある。脊椎の構築上の異常から生じる病態の手術点数は前者で統一してはどうか。			黄色靭帯骨化症は椎弓切除を複数したこと請求したほうが有利である。特殊疾患の手術点数を設けるとOPLL、強直性脊椎炎、RA、カリエスなどの点数設定の要望が続出する。脊椎外科学会が主導で手技を中心に点数設定を改めて欲しい。

<b>Q 8</b>	<b>ジャンル：D. 脊椎・脊髄</b>	<b>要望</b>	<b>コメント</b>
脊椎固定用材料を設定した場合はインスツルメンテーション手技として主たる手術の点数の100分の50を加算するよう要望する。			要望事項として出す妥当性はある。ただインスツルメントの値段があまりに高価で、50%下げれば、全体の費用としてはバランスがとれる。物と手術手技を分離し、物の値段を下げさせて技術料を上げるという姿勢も必要である。

<b>Q 9</b>	<b>ジャンル：E. 関節</b>	<b>要望</b>	<b>コメント</b>
感染性人工関節の治療に関する点数の新設を要望する。人工関節抜去術の点数新設だけでなく、抗生剤入りセメントビーズの留置、術後の持続洗浄も点数設定が必要ではないか。			抗生剤入りセメントビーズの留置は一般的には認められていない。特殊な感染症の治療として要望事項として提出するしかない。J040.2局所灌流骨髓炎1700点/日はある。

<b>Q10</b>	<b>ジャンル：E. 関節</b>	<b>疑義</b>	<b>コメント</b>
関節形成術の定義が明らかでない。RAやOAの肘関節機能再建で肘関節の滑膜切除と全骨棘切除を行った。K066.1肘関節滑膜切除術+K049.1骨部分切除上腕+K049.2骨部分切除前腕×2の請求をしてよいか。			合算して請求すると21940点にもなり、良心的ではない。これだけの手術であれば、K076.2肘関節授動術16100点かK080.2肘関節形成術17600点で請求してよい。尺骨神経前方移行を併せて行った場合、認めるかどうかの判断は審査委員の間であい半ばした。

## 日整会役員・代議員懇談会

平成12年9月27日、国立京都国際会館で開催され、下記の議題について報告と討議が行われた。

1. 第74回日本整形外科学会学術集会（千葉）の中間報告
2. 第15回日本整形外科学会基礎学術集会（京都）の運営報告
3. 第34回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会（宇都宮）の中間報告
4. 各種委員会中間報告
5. 認定医問題検討部会の中間報告
6. 「骨と関節の10年」事業の中間報告
7. 代議員提案議題
8. その他

このうち4、5、6、7について報告する。

### 4. 各種委員会報告

#### 教育研修委員会

専門医の単位と研修手帳の見直し。整形外科教育研修の歴史の編纂、卒前卒後の整形外科の教育についてスーパーローテイトも含めて検討している。

#### 骨・軟部腫瘍委員会

悪性骨腫瘍の取り扱い規約の改訂版が完成した。ついて悪性軟部腫瘍の取り扱い規約の改訂を11月に行う。遺伝子診断については各大学倫理委員会が行っており、日整会としては状況を見る。

#### 身障福祉義肢装具等委員会

介護保険の情報を日整会広報誌に連載。認定医試験に身障福祉義肢装具の問題をもっといれるようにQ&Aの問題をつくる。義肢装具の教育講演を取り入れるために講師の推薦を行う。

#### 社会保険等検討委員会

今年度整形外科の手術料が20%アップした。外保連との関係を強化しているのでその効果がでた。日整会の診療報酬検討委員会にも委員を送っている。全国整形外科保険審査委員会議を200名の参加で開催した。柔整師の診療報酬の問題にも取り組んでいる。

#### 日整会誌編集委員会

日整会誌の学会号の抄録を半ページにする。JOS（英文誌）の発行部数が1100部でじり貧であるので半ページ化で浮いた費用で入会后6年まで無料配布する。JOSの投稿規定を改訂した。

#### 学術用語委員会

用語集第5版を発刊した。

#### 国際委員会

神戸の日整会の際トラベリングフェロー4名を迎えた。JOAからのトラベリングフェローは定員を6名から4名に昨年から減らした。日英整形外科合同会議についての報告。

#### 専門医制度委員会

資格継続の単位取得の制度の見直しについて理事長から改訂の必要性の具体的エビデンスを出すよう意見があり、検討中である。

#### 医事紛争委員会

第74回日整会で「整形外科におけるリスクマネジメント」というパネルを行う。医事裁判での鑑定人の名簿、鑑定マニュアルの作成を行っている。

#### スポーツ委員会

日本体育協会、日本医師会のスポーツとの併合についてはまだ協議中である。

#### リウマチ委員会

今年度がリウマチ学会認定医移行措置の最終年度となる。リウマチの研修単位の互換性など調整中である。

#### 理学診療委員会

骨関節疾患に対する保存療法のアンケート結果を年内に日整会誌に載せる。理学診療マニュアル第2版が完成した。

#### 定款等検討委員会

新定款に基づく諸規定の整合性についてチェックしている。

#### インプラント委員会

ボーンセメントの合併症について2500施設にアンケートした。回収率40%で死亡例が8例あり、全例80歳以上の人工骨頭に使ったものであった。詳細は日整会誌にのせる。今後は抜去した人工関節等の検査を厚生省インプラントデータ準備委員会と協力して行う。

#### 産業医委員会

第74回日整会で「頸肩腕症候群の疾患概念とその病態」というパネルを行う。米国のNational Academy Pressが出しているWork-related Musculoskeletal Disorderという本の翻訳出版をする。

#### 医療システム検討委員会

骨と関節の日、骨と関節の月間、骨と関節の10年のキャンペーンを行っている。9月7日に骨と関節の日の記者説明会を行い、「骨と関節の10年」と「骨折治療の最前線」の講演を行った。10月8日は電話相談を5台の電話で行う。日整会という名称を日本柔道整復師会も使っているため、日本整形外科学会は日整会を商標登録した。

#### 骨系統疾患委員会

登録票の簡素化を行って登録がました。登録開始後10年経過したのでこれをまとめる。1997年骨系統疾患の国際分類が改訂されたので和名分類も改訂する。骨系統疾患の遺伝子解析が長足の進歩をとげているので本委員会は国際情報の収集と会員への情報提供を行う。

#### 移植問題等検討委員会

同種骨移植のアンケートを行っているが回収が悪い。同種骨移植が保険収載されたのでその件数や費用など調べて保険点数の改訂要望の資料にしたい。

#### 骨粗鬆症委員会

大腿骨頸部骨折の全国調査を継続的に行う。また各地区での定点観測的調査も継続する。

#### 倫理委員会

科学技術庁の依頼でヒトゲノム研究の倫理面の検討を行った。医道審議会で日整会員2名が裁定を受けた。このうち1名はウログラフィンのクモ膜下腔注入による事故で日整会広報室ニュースで注意を喚起した。学会や雑誌で患者の名前などIDを出さないようプライバシー保護についても広報室ニュースでとりあげた。

#### 基礎委員会

基礎学会でbone and joint decadeの記念シンポジウムとして「臨床応用のための運動器細胞の分化と機能の抑制」を行う。

## 診断評価等基準委員会

整形外科評価基準の英文化と整形外科関連学会と共通の診断基準をつくるためのガイドラインを作成する。

## 特別委員会

日米加欧整形外科基礎合同会議準備委員会

2000.6.1～3ギリシャで開催する。

## Q & A委員会

Q & Aの問題を全面改訂して2001年春に発刊する。

## 日英整形外科合同会議プログラム委員会

JOAから240のフリーペーパー。このうち88は口演他はポスターセッション、その他脊椎、膝等々のSpecialty sessionがある。

## 広報室会議

日整会からの情報提供はまずインターネットで速報を流し、その後広報室ニュースや日整会誌に載せるという方法で行っている。

## 専門医試験委員会

平成13年1月18、19日に第13回の専門医試験を行う。例年650人の受験者があるが今年は570人に減少した。

## 5. 認定医問題検討部会

理事会のなかに設けられている部会で認定医（専門医）の質的向上を目指して諸課題を検討している。今年度は認定リウマチ医制度について検討している。リウマチ学会のリウマチ医への移行措置をとったがりウマチ学会のリウマチ医に移行した人は1000人弱、リウマチ財団に登録した人は1300人、これに対し日整会認定リウマチ医に残る人は3500人以上で実質的には1本化されていない。リウマチ医の1本化についてはリウマチ学会との合同委員会を作って様々な課題の解決の努力を継続していく。会告で日整会認定リウマチ医は廃止するとしたが、実質的な1本化がなされるまでは認定リウマチ医は中止しない。リウマチの研修の充実をはかる。新しく認定リウマチ医を認定しないとしたが、これについても流動的に対応したい。

## 6. 「骨と関節の10年」事業の中間報告

「骨と関節の10年」日本委員会が始まった。日整会を含め32学会が参加した。講演、出版、会議などの事業を行っていく。今後コメディカルや患者団体も含めて参加を増やしていく。

日本委員会の事務局は日整会におく。「骨と関節の10年」国際委員会は年1回各国の代表が集まって情報交換を行う。今年は11月26～28日にオマーンで開催される。黒川理事長が日本代表として出席する。

## 7. 代議員提案議題

「整形外科医療の周辺問題の資料集」という柔整師の問題に関する提案が中国・四国の角南義文代議員（JCOA）から提出された。年間3000～4000億円が公的医療保険から支出されている柔整師施療の医療費の請求の違法性や養成学校の乱立の問題など多くの意見が出された。

（文責 関 寛之）



## 骨と関節の日の電話相談

10月8日、日整会事務局で「骨と関節・電話相談室」が開かれた。この日は日本整形外科勤務医会が担当することが恒例となり、今年から相談用の電話も昨年よりも2本増やして5台の電話で対応することになった。そのため担当の先生も昨年までの4名から6名に増やし、3連休のど真ん中の日をつぶして出でいただいた。上小鶴正弘、立花新太郎、土屋正光、関 寛之、勝又壮一、村瀬鎮雄の諸先生が勤務医会からの担当者として、その他に勤務医会の田島 宝先生と堀内行雄先生が医療システム検討委員会担当理事、委員として参席された。相談件数は149件であった。

## 会員の異動

### 新入会員

飯田 裕 霞ヶ関中央病院  
〒350-1175 埼玉県川越市笠幡5024-103  
TEL 0492-31-5121

山田 道生 筑波大学附属病院  
〒305-0005 茨城県つくば市天久保2-1-1  
TEL 0298-53-3525

吉田 太郎 筑波記念病院  
〒300-2622 茨城県つくば市要1187-299  
TEL 0298-64-1212

## お知らせ

### 第31回日整会認定教育研修会

関東地区整形外科勤務医会では、下記のごとく幹事会及び教育研修会を開催いたします。なお、研修会の出席予約は要りません。認定医以外の先生方もお誘い合わせの上、ご参加下さい。会終了後、懇親会も予定しています。

### 記

日 時：平成12年12月2日（土）15:30～18:30

会 場：住友化学・参宮寮（地図参照）  
〒151-0053東京都渋谷区代々木4-1-3  
TEL 03-3320-3994

幹事会：15:00～15:30

教育研修会：15:30～18:30

(1) 骨粗鬆症の治療法とその中間成績  
(15:30～16:30) (N 1単位)

講師：国立西埼玉中央病院  
整形外科 医長 滝澤 博先生

(2) 骨軟部腫瘍治療の現況  
(16:30～17:30) (N 1単位)

講師：癌研究会附属病院  
整形外科 部長 川口 智義先生

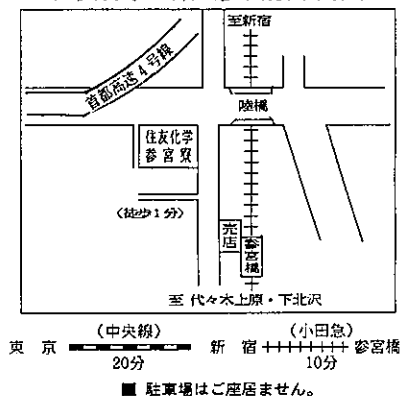
(3) 勤務医と労働基準法  
(17:30～18:30)

講師：労働省 労働基準局  
庶務課長 中野 雅之先生

受講料：1題 予2,000円（講演(1)(2)の単位取得者のみ）

懇親会：ひきつづき18:45より同会場にて行います。 共催 住友製薬株式会社

住友化学工業(株)参宮寮案内図



千葉 和宏 総合太田病院  
〒373-8585 群馬県太田市八幡町29-5  
TEL 0276-22-6631

三笠 貴彦 総合太田病院  
〒373-8585 群馬県太田市八幡町29-5  
TEL 0276-22-6631

芦田 利男 総合太田病院  
〒373-8585 群馬県太田市八幡町29-5  
TEL 0276-22-6631

谷野 善彦 総合太田病院  
〒373-8585 群馬県太田市八幡町29-5  
TEL 0276-22-6631

長島 賢二 国立身体障害者リハビリテーション  
センター病院  
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1  
TEL 042-995-3100

小宮山千晴 国立身体障害者リハビリテーション  
センター病院  
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1  
TEL 042-995-3100

### 退会者

市村 洋(茨城県) 高見 博(神奈川県)  
竹内 孝(千葉県) 藤井 英世(神奈川県)  
関 敦仁(栃木県) 大池 茂保(神奈川県)  
田森 圭一(東京都) 福田 文雄(茨城県)

これまでの勤務医会へのご協力ありがとうございました。

### 勤務医会入会のご案内

勤務医会の世代交代で役員も大幅に若返りします。これまでは比較的小人数でも組織力以上に勤務医会の発言や活動が評価されてきたと思います。

これは創設の意気に燃えた先輩の活力に負うところが大きかったと思います。勤務医会が地力をつけるには組織力の強化しかありません。ローテーションできた若いドクターを必ず入会させて下さい。太っ腹に会費は奢っていただければ入会しない人はまずいません。よろしく願いいたします。

### 入会申込書

平成 年 月 日

(フリガナ)  
御氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 (大正・昭和) 年 月 日

現住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

勤務先名称 \_\_\_\_\_

勤務先住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

e-メール \_\_\_\_\_

役職名 \_\_\_\_\_

出身大学 \_\_\_\_\_

卒業年度 \_\_\_\_\_

出身教室 \_\_\_\_\_

入会申込み送り先

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院内

関東地区整形外科勤務医会事務局

関 寛 之

TEL 042-995-3100 FAX 042-995-0355

## 事務局日誌

- 平成12年7月24日 日整会社保委へ外保連への要望事項発送
- 7月28日 外保連加盟の整形外科関連学会の合同会議参加
- 8月19日 勤務医会社会保険委員会
- 8月26日 日整会社保担当理事、JCOA、勤務医会三者の全国整形外科保険審査委員会議の打ち合わせ
- 9月24日 全国整形外科保険審査委員会議
- 9月28日 日本整形外科勤務医会名誉会員・役員・幹事会
- 10月10日 整形外科職域三者懇談会（大学、JCOA、勤務医会）
- 10月17日 常任幹事会
- 10月30日 名簿作成用往復はがきおよび病院紹介の依頼状を発送
- 11月2日 教育研修会講師へ講演依頼の確認状を発送
- 11月6日 教育研修会の案内を発送
- 11月13日 会報45号原稿を印刷所に発送

## 編 集 後 記

夏休みのあたりから勤務医会の仕事が忙しく続いた。事務局の他に社会保険委員会委員長を併任しているためもある。この間の勤務医会を取り巻く状況の変化はめまぐるしかった。

一つは勤務医会が外保連に加盟したことである。これは日本整形外科勤務医会事務局の石名田先生のご尽力に負うところが大きい。整形外科診療報酬の改訂は外保連が厚生省や医師会に具申してとりあげられる。外保連に加盟すると我々の要望が直接外保連をとおして厚生省に届くようになる。今年はオブザーバーで直接要望を提出できなかったので日整会の名前で出していただいた。社会保険委員会の活動は教育研修委員会と並んでますます勤務医会の重要な活動になる。

もう一つは来年度は勤務医会の役員、日整会代議員、日整会役員の改選の年であり勤務医会の地盤の維持である。勤務医会は代議員会や理事会で多くのdecision makingな発言や活動を行っており、学会運営に重要な役割を果たしている。しかし代議員や役員の選挙となると組織力が弱くて戦えない。この弱点がさらけでないように、日本勤務医会会長、関東地区会長にご奔走いただいた。現在は選挙期間中で勤務医会のたてた9人の立候補者の全員当選を祈るのみである。代議員立候補者は会長の寄稿にあるように、日本整形外科勤務医会役員会と関東地区勤務医会常任幹事会で決まった役職者を関東地区の代表として送り出すという原則で決めた。勤務医会、大学、臨床整形外科医会とも同様なプロセスを経て候補者選びをしているので、日整会員全員の投票による選挙戦がなくても適任者が公正に選ばれる。

勤務医会の役員も来年度は創設以来会を引っ張っていただいた先生方が去り、一回り若い世代と交代する。組織の拡充をはかり、引き継いだ遺産をさらに価値あるものにしていきたい。

住友製薬

# Didronel®



骨代謝改善剤 エチドロン酸 ニナトリウム錠

## 錠200 **ダイドロネル**®

薬価基準収載

■ 効能・効果、用法・用量、使用上の注意等は添付文書をご覧ください。

製造発売元

資料請求先 住友製薬株式会社

〒541 大阪市中央区道修町2丁目2番8号

Trademark and product under license from Procter & Gamble Pharmaceuticals, Inc. USA

住友製薬

区厚用員承認番号16200BZZ01201

骨補填材

# ボーンセラム® P BONECERAM-P

バイオフィUNCTIONALな機能設計に基づいて製造されたハイドロキシアパタイトです。

- 特徴**
1. 骨動態学的特性を有しています。
  2. 生体適合性が優れています。
  3. 生物学的安全性が認められています。
  4. 力学的強度が優れています。
  5. 臨床的有用性が認められています。

性能、使用目的、効能または効果

骨または関節手術における骨補填。

使用上の注意

1. 本品使用の際は、無菌的に取り扱うこと。
2. 本品は滅菌済包装してあるので、手術直前に開封し、すみやかに使用すること。
3. 開封したものは再使用しないこと。
4. 本品は、できるだけ清潔な場所で保管すること。
5. 高度の荷重がかかる関節面の直下などにおける本品の単独使用は避けること。

使用方法

採骨部位または骨欠損部位に、予め生理食塩液に浸漬した成形加工品または顆粒を、充填又は補填する。



連絡先

住友製薬株式会社  
医療材料部

大阪市中央区伏見町2丁目1番1号 TEL(06)6229-5649  
東京都千代田区神田駿河台3丁目11番地 TEL(03)5280-6643  
仙台市青葉区大町2丁目2番10号 TEL(022)291-2651  
名古屋市東区代官町3番19号 TEL(052)939-3681  
福岡市博多区博多駅前1丁目2番5号 TEL(092)431-6671

製造元

住友大阪セメント株式会社  
東京都千代田区神田美土代町1番地

販売元

住友製薬株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目2番8号

10月8日

『骨と関節の日』

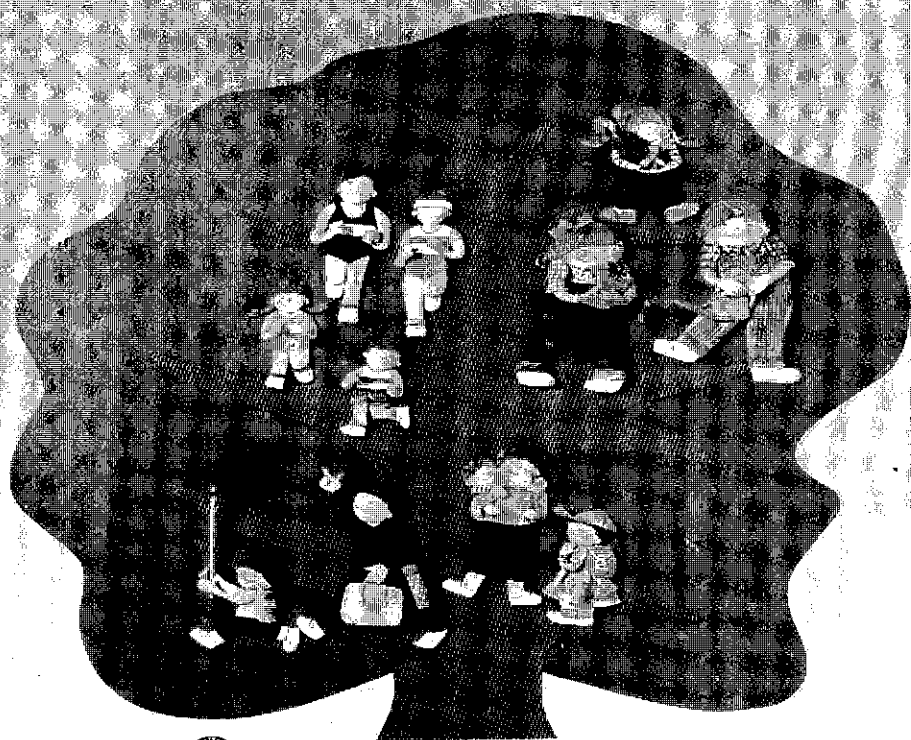
10月

『骨と関節の月間』

2000-2010年

『骨と関節の10年』

— 骨と関節の健康を考えましょう —



社団法人日本整形外科学会